

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000353		
法人名	有限会社エイプラスアール		
事業所名	カサブランカグループホーム江井島		
所在地	明石市大久保町江井島209-1		
自己評価作成日	令和1年11月8日	評価結果市町村受理日	令和1年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-casablanca.co.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和1年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人を主役と考え、尊厳を保ちながら自立した生活が出来るようチームケアを実践しています。生きる力、出来る事を奪わない介護、気持ちに寄り添う介護を行い、日ごとの小さな変化を見落とさないように取り組んでいます。
また、家族や地域社会との関係を断ち切らない様、開かれた事業所になっております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・本年度より法人傘下GH等の研修、地域対応等を法人主導の体制へ移行に伴う仕組み整備を計画的に推進している。
【工夫点】・主治医、看護師との連携のもと。看護師は毎日訪れ、24時間体制も整備されている。・職員全員の面談を実施し、チームケアによる働きやすい職場改善に向けた取組みを推進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、出勤者全員で理念の唱和を行っている。令和元年9月からの個人面談で、理念暗記のテストを1人ずつに行った。来年の面談では更に今年以上頭に入れておくことを目標としている。	玄関受付事務所上等に理念基本方針、介護サービスの特徴を掲げ、朝の申し送り時に出勤者全員で理念の唱和を行い、ポケットカードの配布や個人面談時に職員周知状況確認等行い理念共有による実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア等社会資源を利用している。地域のゾーン会議にて、問題や情報を共有するようにしている。	地域の小学校コミュニティセンターでの認知症についてのゾーン会議に参加し、地域で如何に支えるか？等問題や情報を得、事業所自体が地域も一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を通じてオープンな事業所として地域の方に認知症の人の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、今後の運営に活かしている。又研修などを会議の後にし、事業所の理解を深めてもらっている。地域包括の方々にも参加して頂き、アドバイスを頂いている。	小規模合同の運営推進会議を開催し、家族6名前後、地域包括等参加のもと、定例報告や事故・ヒヤリハット等の取り組み状況報告後意見交換を行っている。家族よりの買物の苦労話に対し送迎可能へのアドバイス等している。又会議後研修を行い、参加の地域包括担当等よりアドバイスを貰いサービス向上に活かしている。	会議参加の家族より、また今回実施の家族アンケートにて異動はやむを得ないが、職員への引継が上手くいっていない指摘がある。顧客満足向上を目指し、これらの指摘の早期改善推進が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者との連絡を取り、相談を行う事により運営に活かしている。又、介護サービス事業者連絡会に参加することにより協力関係を築くよう取り組んでいる。	代表が明石市サービス事業者連絡会副会長をしており、又日頃から市担当者と連絡をとり相談等行いケアサービスの取り組みに協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、具体的な介助方法等の話し合いの場を設けている。	月1回のミーティング時に「身体拘束とは」の研修を行い他は関連資料配布やDVD鑑賞の勉強等を実施している。職員理解を深め、身体拘束しない介助方法等の取り組みをしている。玄関施錠は日中はフリーである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全職員が研修を行い理解を深め、虐待防止に努めている。	管理者や職員は高齢者虐待防止に関し、「虐待種類と程度」の研修を計画的に進め、事業所内等で虐待が見過ごされることがないよう防止に努めている。	

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市町村に相談、助言をもらうなどしながら支援を行っています。職員へ研修を行い、制度の理解を深めてもらっています。	現在GHには、成年後見制度活用者はいない。併設の小規模多機能では活用者がおり、市等に相談、助言をもらい支援している。権利擁護に関する制度の理解と活用についての計画明示がない。	研修計画に権利擁護に関する制度理解と活用に関する研修を明確にした研修実施が期待される。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分時間を取り詳しく説明をしている。特に料金、リスク、看取りなどは時間をかけている。不安な事は質問してもらっている。	契約等の際の説明は、十分な時間を取り、家族等の関心事を確認し、入院時の居室確保期間料金や、看取り等十分な説明を行い理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において運営状況を説明し、意見を言って頂く機会を設けているのと、日々家族様から管理者やケアマネージャーに質問や意見を聞いている。	運営推進会議参加や玄関受付に意見箱設置等利用者や家族等が意見・要望を管理者や職員に表せる機会を設け、意見、要望を運営に反映させている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月、月初めに行う運営会議時に各事業所からの要望・意見を出し合う機会を設けている。 ・毎月の各事業所のミーティング時は意見提案を出し合い順次問題点を解決していくようにしている。	運営推進会議で小規模で看護師常勤の人が欲しい要望が出て、GHもそれなりの対応を行った。又朝1時間回廊式廊下を活用し歩行訓練等行っているがベランダに出してしまう事があり、安全対策実施等に提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。各自1年を振り返り評価を行ったあと、一人ずつ面談を行い来年度に向けての話し合いの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は社内研修や社外研修を職員に受けさせる機会を設けている。評価制度を取り入れ、職員個々の能力を把握する事が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケアシステムや部会、定例会、ブロック会議などに参加して交流、意見交換などを行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に向けて本人が困っている事、不安な事をしっかりとヒヤリングし、安心して施設利用出来る様に努める。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、見学時、契約前、サービス利用開始前に質問や説明する機会を設けて不安を軽減して意見をしっかりと聞くようにしている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかりと行い、必要としている支援を把握して計画に反映させている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の尊厳を大切に本人を理解し、共感し、信頼関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の様子を写真付きで郵送して情報の共有を行い、来て頂ける家族様には来て頂き関りを断ち切らないようにしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通して、これまでの馴染みの関係を途切れないよう支援に努めている。	これまでの地域社会との関わりを継続して行くために、地域に暮らす馴染みの知人や友人が事業所を訪れる。継続的な交流ができるように働きかけている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の性格や行動を把握し、それぞれが生活する上で関りが上手いような支援に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にしながら要請があればいつでも相談に乗れるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々接する中で傾聴や発した言葉の真意を組み取り、共感することにより本人の思いを把握している。	本人がどこで、どのように暮らしたいのか、何をしたいのか、誰に会いたいのかを理解するためのアプローチを一つひとつ丁寧に対応している。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかりと行い、情報を共有している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察して少しの変化に注視し、記録に残し現状の把握に努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の課題をモニタリングし、関係者との定期的、臨時に行うカンファレンスを通して、意見を反映した介護計画を作成している。	日々の関わりの中で本人の想いや意見を聞き利用者の視点にたちその人らしく暮らし続けるためにそれぞれのアイデアや意見を反映しカンファレンスを通しモニタリングを行っている。	職員の視点から見た業務をこなす介護計画ではなく、一人ひとりの生活課題を抽出し目標設定し現状に即した計画作成を期待します。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中、夜間の様子を記録に残し、申し送りで情報の共有をしてカンファレンスで活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化がある中で、その時その時の課題に対応出来るよう柔軟な運営を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者家族・職員のつながりから近隣のボランティアサークルを定期的に招待する事で馴染みの関係が出来ている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の定期訪問診療を利用して安心出来る体制と関係性を築いている。他の専門医へは家族同行で受診して頂いてる。	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診することができる。提携医による往診や24時間体制が整備されているので夜間急変時など対応もでき適切な医療が受けられるよう体制が整っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師と協力医の看護師で連携を取り、利用者様が適時適切な看護が受けられるようにしている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、情報交換・相談を行い、良好な関係が築けている。	医療機関に対して、入院の目的を早く伝え、なるべく本人の混乱が少ないように、提携医から医療情報の提供と本人の普段の状況や特徴など看護師から伝えている。日頃から病院の地域連携室とは密に情報交換を行い関係づくりを行っている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用される前から終末ケアについて本人、家族様と話し合いを行い意向を伺っている。事業所内、協力医療機関とも情報の共有を行いチーム支援に取り組んでいる。	本人や家族の大きな関心と不安が重度化した場合と看取りの対応であり、契約時には事業所として対応し得る最大のケアについて十分説明し同意を得ている。本人、家族の意向を踏まえ、主治医、看護師、職員が密に連携をとり、安心し納得した最期を迎えられるように話し合いを繰り返し取り組んでいる。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応に備えて、定期的に見守り職員より応急措置の指導を受けている。夜間帯を想定したマニュアル・資料作りも必要である。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、夜間でも安全に避難できるよう訓練を行っている。	運営規程に基づき年2回の非常災害避難訓練等消防署立会で昼&夜間想定訓練を実施し、協力医療機関との連携方法、支援方法等確認している。備蓄は、水以外は未整備。	・車いす利用者が数名おり夜間の発生時ベランダ避難の速やかな対応等近隣地域住民等訓練参加協力推進が期待される。・災害用備蓄の保管管理運用が望まれる。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方の尊厳を保ち、それぞれにあったケアを行ってプライバシーの保持を行っている。	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認と改善に向け事業所として取り組んでいる。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように自立より自律出来るよう支援を行っている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは職員で話し合いながら決めていくが、それぞれのペースで一人一人個別に過ごし方を選らべるようにしている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの時、自分の意志で服を選んでもらっている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	充実した献立により食べる関心や楽しみを持つよう盛り付けている。昼食やおやつレクに力を入れ、共に考え・作ることで楽しみを増やしている。	利用者の中には、見守りや支えがあれば食事の後片付けやおやつ作りのお手伝いなど発揮出来るものがたくさんある。買い物や料理など食事レクを通し職員と利用者と共に行動し、楽しく食事できるような雰囲気づくりを大事にしている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリーや栄養バランスは確保出来ている。食事量、水分量を記録に残して体調に合わせて必要な摂取量を取れるよう支援している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎にならないよう口腔内の清潔の保持に努めている。口腔ケアを一人一人に対応した支援を行っている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し適切な感覚で声掛けを行い、身体機能に応じて適切な支援を行っている。	ひとり一人のサインを全職員が把握し、あからさまな誘導ではなくさりげなく支援している。トイレでの排泄を大切にしながら、身体機能に応じて手を差し伸べたり、歩行介助をし気持ちよく排泄するために工夫している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の必要な摂取、運動不足の解消で自然排便出来るよう取り組んでいる。自然排便が困難な時は医師、看護師に相談し排便コントロールを行っている。		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人ゆっくりと入浴をして頂き、週2回体調や感覚を考慮して声掛けを行っている。	職員が一方的に決めずにその日の希望に合わせて入浴していただく。入浴を拒む方に対しては、言葉がけや対応の工夫で利用者の心情を察した配慮を検討し試みる。看取りの方には体調管理等を行い看護師対応で入浴できるよう支援している。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体調を見ながら休憩して頂いている。昼夜の区別がつくよう日中はなるべく起きて頂くようにしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ずつの服薬リストを作成している。処方通り正しく服薬出来るよう支援している。変化が見られた時には医師に連絡相談し、対応するよう努めている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が生きがいを持って生活して頂けるよう生活歴や日頃の様子、本人の希望を傾聴する事により望ましい楽しみを提供し支援している。		
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時には散歩やドライブ、季節を感じられるところへ出かけたり、食料品の買い物に同行してもらったりしている。又本人の希望があれば対応している。	一人ひとりの状態や習慣に合わせて季節、地域のその時々状況に応じて外出を楽しめるよう検討している。月1～2回のドライブは体調の良い方ほぼ全員で出かける。大蔵海岸や紅葉見学におやつを持参し出かけている。日用品や食材の買い物に職員と一諸に出掛けることもある。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本事務所で預かっているが、管理出来る方にはご自身で管理してもらっている。預かっている方も希望の買い物が出来るように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を大切に希望に添うように努めている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は日光と風を感じて頂ける作りになっており時間や季節を体で分かる空間になっている。自分の席とは別に大型のテレビの前にソファがあり、ゆっくりとくつろいで頂ける。	共用の空間は利用者にとって不快や混乱を招く刺激がないよう配慮し、居間は日光や風を感じて頂ける様になっており大型のTVの前にソファを設け居心地良く過ごせる工夫をしている。本施設は回廊式廊下があり、歩行訓練等活用している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の様子を観察し、それぞれに合った空間で過ごして頂いている。本人の体調や利用者様間の人間関係も考慮している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や飾りを持ってきてもらい住み慣れた場所に近くなるように考慮している。	居室は本人と家族と相談し使い慣れた家具や思い出の写真やTV等持込み本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を生かし出来る事になるべく減らないように自立した生活を送れるよう尊厳を大切に支援している。		